

稚内北星学園大学 COC まちラボシャッターアートプロジェクト実施報告書

小谷彰宏

● 要約

稚内北星学園大学 COC では、地域の魅力となるような事業に育つことを目標として、まちなかメディアラボが開設されている稚内中央商店街でまちラボシャッターアートプロジェクトを立ち上げた。

この報告書は、まちなかメディアラボのシャッターアートを制作し完成させるまでの記録である。

まちラボシャッターアートプロジェクトを事例として、商店街全体のシャッターアートプロジェクトへ前進し商店街が活性化することを期待する。

● キーワード

シャッターアート

商店街活性化

シャッター商店街

まちづくり

芸術による地域振興

はじめに

全国的に問題となっているいわゆる「シャッター商店街」は、コンビニエンスストアや大規模商業施設の増加、店主の高齢化と後継者不足など様々な要因によるものですが、商店街の空き店舗の増加は地域の魅力の喪失であり結果的に街の衰退へつながります。その対策としての地域活性化の方法は多様であり、その一つ芸術の分野ではアートの持つ創造性を社会に還元する目的で地域イベントやまちづくりなど地域振興や観光産業振興等に活かしています。

そこで、稚内北星学園大学COCでは、まちラボ（まちなかメディアラボ）が開設されている稚内中央商店街で、シャッターアートプロジェクトを立ち上げることにになりました。少しずつですが、シャッターアートをまちラボから商店街全体に広げ、地域の魅力となるような事業に育つことを目標としています。

■内容

本プロジェクトは、情報メディア学部としてのメディア表現教育の観点からアクティブラーニングの実践とし、1年目は、地域情報の収集と課題の発見、そして問題提起や解決に結びつけたテーマを商店街全体のコンセプトとし、グループワークによる研究と成果の発表を行った。年度末には、先進地の事例視察を行い、次年度学生に引き継ぐ。

2年目は、まちラボのシャッターアートを中心とした、商店街シャッターアートの地域振興や観光産業振興等における課題や可能性を分析するとともに、ビジュアル表現のための地域素材を収集し、コンセプトに沿ったデザイン表現の提案とCG（コンピュータグラフィックス）によるイラストやフォトアートの制作を行った。

また、稚内中央商店街関係者を交えたワークショップでの意見に沿って、コンセプトの見直しを図り、「ロシアサハリン州と交流する未来の稚内」よりマトリョーシカをメインキャラクターに、ユーラシア大陸の窓口あるいはヨーロッパへの入り口をテーマとした景観の演出とする。これは、国内の観光客をターゲットとし、現在の最北、最果てのまちと言う終着の地のイメージから、国境のまちであり国際交流の拠点と言う新たなイメージを感じていただくデザインとした。

制作したデジタルデータは、ディスプレイ製作会社の協力で、ラッピングフィルム印刷とシャッターへ貼り付ける施工が行われた。これらの工程を経て、二学年に跨がり2年間に渡る教育の成果として、まちラボのシャッターアートが完成した。

一般的にシャッターアートと聞くと、塗料による手描きの絵画やイラストを連想するが、本学が情報メディア学部でありメディア表現教育の一環で行うことから、芸術学部の美術教育の絵画表現と異なる、デジタルデータによるラッピングフィルム印刷の選択は妥当である。

このデジタルデータ化は、AR（拡張現実）等への展開が可能となり、将来的に情報テクノロジーコースとの連携で、スマートフォンアプリとシャッターアートのコラボレーションなど、本学のシーズを活かした地域振興や観光産業振興への貢献が期待される。

その試作品は完成済みで、まちラボシャッターアートとのコラボを参考事例として、稚内中央商店街の活性化のために商店街全体のシャッターアートプロジェクトへ前進することを期待し、まちラボシャッターアートプロジェクト実施報告書とする。

1. まちラボシャッターアートへの取り組み 1 年目 (2015 年度)

A) 商店街シャッターアート全体のコンセプトデザイン

物語性や地域性のある題材をテーマに 2015 年度 2 年生「情報メディア演習 II」にて 4 グループ (1 グループ 4~5 名) が、調査及び提案発表を行った



図 1 グループワーク授業風景 1



図 2 グループワーク授業風景 2

- ① 稚内とタロとジロと南極祭りの関係を歴史的に考察
 - ・ 南極物語をテーマに各店舗のシャッターを絵本のように表現
 - ・ なぜ南極祭りと言うのか? など「稚内あるある」の Q&A
- ② 南中ソーラン
 - ・ 決めポーズと歴史紹介
 - ・ 踊り方解説イラストと踊り体験イベントと連携
- ③ 風車・稚内の再生可能エネルギー
 - ・ 風車と宗谷丘陵の風景
 - ・ 再生可能エネルギーテーマパーク
- ④ 100 年後の稚内
 - ・ 地理的あるいは歴史的等の観点から稚内でしか出来ない未来想像図 (創造図) を描く → 隣町に行く感覚でロシアサハリン州と交流する未来の稚内

2. まちラボシャッターアートへの取り組み2年目（2016年度）

A) メディア表現コース学生によるコンセプトデザイン

2016年度2年生はコース制1期生のコース選択初年度にあたり、「ゼミナールⅠ(メディア表現)」でメディア表現コース選択学生4名による、地域振興や観光産業振興等における課題や可能性の分析を行った

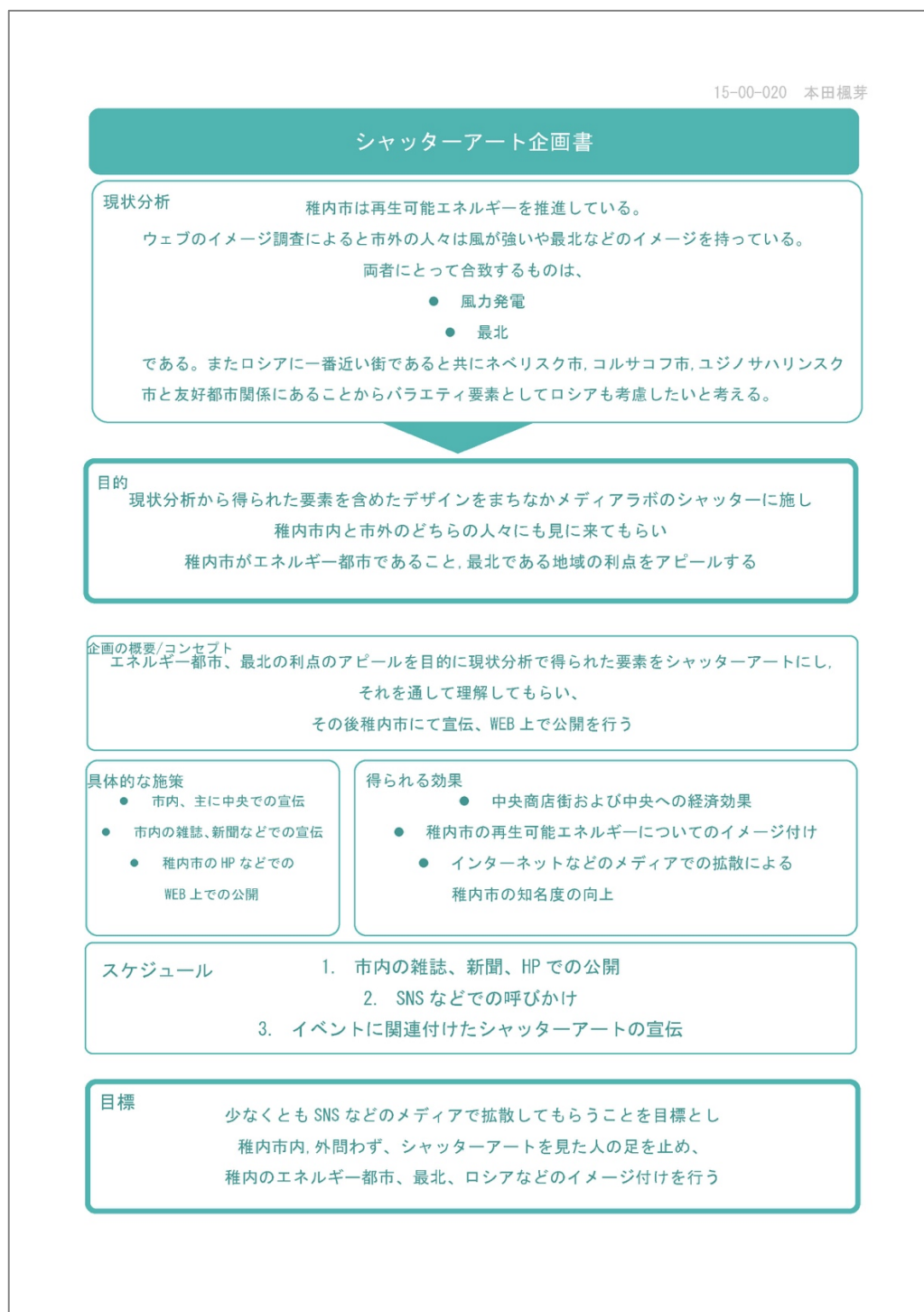


図4 学生の発表資料

B) ビジュアル表現のためのデザイン

昨年度の2年ゼミの提案や上記2.-A)を元に2016年度2年生全コース学生が選択可能な「マルチメディア表現概論、実習」で、ビジュアル表現のための地域素材収集とコンセプトに沿ったデザイン表現の提案を行った



図5 学生主体の授業風景



図6 地域素材の収集資料



図7 地域素材の分析風景1

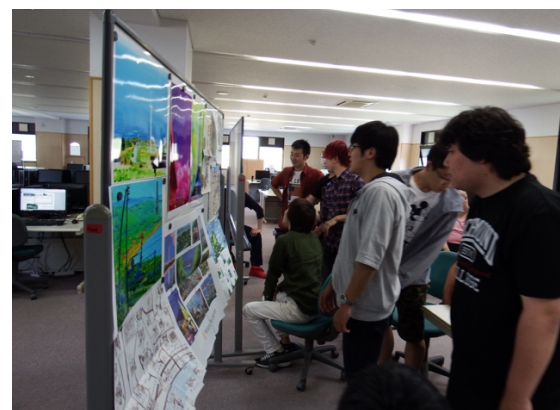


図8 地域素材の分析風景2



図9 地域素材の分析資料



図10 大学見学を訪れた中学生と意見交換

C) 学生によるビジュアルデザインの制作 (監修: 小谷彰宏)

原案→デジタルイラスト等の制作→構成→印刷データ作成

・「マルチメディア表現概論、実習」「ビジュアルデザイン」「画像加工技術」にてコンピューターアプリケーションを活用したCGを制作、手書きイラストもスキャニングを行いデジタル化する
(使用機材等 Apple iMac、Wacom Intuos Pro、Adobe Photoshop、Adobe Illustrator、など)



図 11 Wacom Intuos Pro による手書き入力のデジタルイラストの制作風景



図 12, 図 13, 図 14, Wacom Intuos Pro による手書き入力のデジタルイラスト



図 15 手書き原画の制作風景

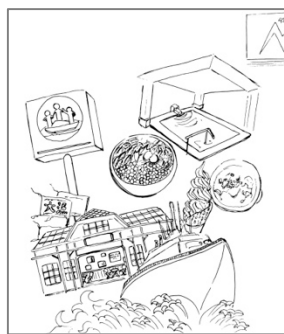


図 16, 図 17 手書き原画のスキャンデジタルイラスト



図 18 Adobe Illustrator によるデジタルイラスト



図 19 Adobe Photoshop によるデジタルフォトアート

D) ワークショップの開催

2016 年 7 月 27 日まちラボにて、「マルチメディア表現概論」「マルチメディア表現実習」の履修
学生代表者 4 名と稚内中央商店街振興組合理事長を交えたワークショップの開催



図 20, 図 21 ワークショップ風景

E) シャッターアート制作 (完成 : 2016 年 9 月 17 日)

・デジタルデータ→業者にラッピング印刷発注→学生によるシャッターの清掃と準備→業者によるシャッター施工



図 22 ラッピングフィルム貼り付け作業 協力 (有) 北都工芸社

・発表 : 2016 年 9 月 18 日 (日) 稚内北星学園大学 COC 全国シンポジウム 地域観光支援室エクスカーションにて



図 23 まちラボシャッターアート完成 (サイズ : 高さ 270cm X 幅 600cm)

F) 成果

デザイン表現による地域活性化がテーマであり、2年生メディア表現コースと地域デザインコースが中心になりましたが、2015年度の2年生の調査提案から、観光資源や地理、歴史、情報化社会と密接に関わる再生可能エネルギーなど本学の5コースすべての分野が関わっていることで学科全体の協働とし、アクティブラーニングの実践教育と成りました。



図 24 まちなかメディアラボ外観（稚内中央商店街）

3. 次年度に向けて

AR（拡張現実）等への展開など、情報テクノロジーコースとの連携でスマートフォンアプリとシャッターアートのコラボレーションなど、本学のシーズを活かした地域振興や観光産業振興への貢献が期待される。

その試作品は完成済みで、まちラボシャッターアートとのコラボを参考事例として、商店街全体のシャッターアートプロジェクトへ前進することを目標とする。（試作のため期間限定公開）



図 25 AR（拡張現実感）デジタル版顔はめマトリョーシカの試作品（制作：小谷彰宏）



図 26 顔はめマトリョーシカ



図 27, 図 28 デジタル版顔はめ公開時フライヤー（期間限定公開）



- ・制作アプリケーション：メガソフト株式会社「3Dイラストデザイナー」
- ・AR アプリケーション：メガソフト株式会社「3D イラスト AR」

● 英文タイトル

The implementation report of the Machi-lab shutter art project

● 英文要約

As a part of COC (Center of Community), Wakkanai Hokusei Gakuen university launched the Machi-lab shutter art project for Machinaka media lab, which is located on the Wakkanai Chuo shipping street, with the aim that this project would be an attractive one for the local community. This report records Machi-lab shutter art project from beginning to finish.

We hope this record will contribute to the future shutter art project for the Wakkanai Chuo shopping street.

● Keywords

shutter art

revitalization of a shipping street

town development

shuttered shopping street

region development by using art